

週日の説教

金 大烈 神父 2010年2月10日(水)

《地区の活性化・(一人ひとりが主人公)》

おはようございます

今日の福音(マルコ7・14-23)は、特別に説明しなくても、人間の弱さについて語られていることを私達がよく知っています。結局、否定的な心があれば、それを「どうか直して下さい。」と願いながら、信仰の生活をするのが私達の姿だと思います。

私が今日、皆様に申し上げたい事は、私の立場では何回も強調して話したい事です。そして皆様の立場では、本当に理解して頂いて、積極的に参加してほしいと思う事なのです。21日に総会が行われますよね。(2月21日は信者総会の予定日)その日にもっと詳しく、全体的に申し上げようとしているのですが、あらかじめ皆様をお願いしたい事は“今年地区の活性化”を考えております。

私が太田に着任してから3年経ったのですが、この3年間は、ほとんど環境作りに力と時間を使いました。自分なりに識別してみますと、ある程度環境的にはどうか形が整えられたと思っています。ですから、今年はなによりも中身を大事にしたいのです。具体的に信仰の味をもっと味わってほしいのです。そして、いつも口でよく話してきた共同体の「真^{まこと}の意味」「分かち合いの真の意味」。皆様が具体的な体験として、それが出来るように案内役をしたいと思っていますのです。

この教会の地区は8つに分けられますよね。けれども、県外と中央区はひとつになって一緒に活動しておりますので、地区としては7つの地区と考えていいと思います。その地区の中に、この教会に席を置いている人々は全部住んでいるわけですよね。そうでしょう。

7つの地区に暮らしている人々は太田カトリック教会の中心になる共同体として、各地区が“小さい教会”になってほしいのです。皆様がその地区で、ひとつの“小さい教会”の共同体を作ることが出来れば、私達は、太田カトリック教会としてもっと上手くいけると思います。もちろん、時間はかかると思います。皆様が地区の集会にどの位の出席率が分かりませんが、今年は私も、出来る限り各地区の集まりに出席するつもりです。

詳しい計画は今立てられています。どのようにするかは、皆様がすこしずつ分かると思います。とにかく皆様が隣人共同体のことを考えずには、上手く教会全体の暮らしが出来ないことを意識して頂きたいです。その中には外国人も居ると思います。その人々も全部地区の集会に誘います。行事にも誘います。

唯ひとつだけ皆様をお願いしたい事は、「頂いている信仰のめぐみに応えましょう」ということです。皆様、神様に感謝していますよね。沢山の恵みを頂きましたよね。そしたら返しましょう。頂く事だけではなく、自分が何とかしてイエス様が喜ぶことをしましょう。もちろん面倒くさいです。自分ひとりで信仰生活すれば煩わしいことがなく一番幸せです。一番楽です。しかし、今年は面倒くさくな

ります。皆様も恩返ししましょう。

うちの教会の皆様一人一人が、一人の宣教師として動いてほしいのです。

今年は特に地区の集会とか、何か活動があれば、是非積極的に参加してほしいのです。そして、“小さい教会”(各地区)のために、「私自身が役に立つことはないか」という気持ちで協力しあえば、上手く行けると思います。やっぱりその過程で失敗もあると思います。例えば「分かち合いなのに、あの人がばかり話している。」「私は口にしたくない。」「あの人、いつも自分勝手に導こうとしている。」とか、そのようなことからはじめ、小さい色々な問題が生じるかも知れません。「あの人は食事の時にいつも口だけでもって来る。」このようなこともあります。人間ですから。しかし、全てをひとつの勉強として、私達が学びましょう。

昔は社会的にしょうがなく、集まらなければならない事が結構あったと思います。今度の集まりは自由に、自分がやりたくて、イエス様に応える気持ちでしようとするれば、本当に素晴らしい結果が出来ると思います。

私は断言します。“小さい地区が活性化”すればこの教会の内部もそして外部も全部上手く行きます。そして、私がいなくなっても、他の司祭が来て皆様の前に立っても変わらずに動きます。それもわたしが考慮している事です。何があっても、何が起きても、皆様は安定した、落ち着いたのある状態で信仰の生活をしてほしいのです。

皆様、近いうちに地区長さんが動き始めます。その時皆様が、今の話を思い出して「どうすれば、私も力になれるのか」と考えて頂けば感謝になると思います。皆様は周りの人ではありません。一人一人が主人公です。その主人公がそれぞれに動けば、本当に素晴らしい家族になれることを意識しましょう。

手を伸ばそうとしても、反応してくれない人々もいると思います。率直に言いますとそれが自然です。1回手を伸ばしただけで反応見せてくれたら、この世界全部が福音化されます。手を伸ばしても、何回伸ばしても、返事がなくても粘り強く、その人のために祈りながら働きがけ致しましょう。そうすれば伝えられると思います。このような心で動いてもらいたいです。

ありがとうございました。